

井の口まちづくり会通信

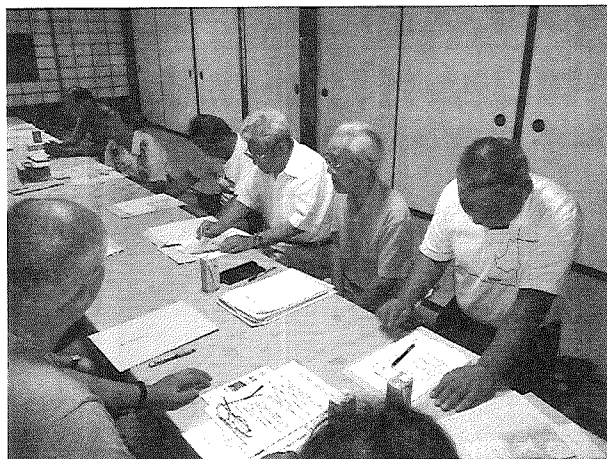
井の口まちづくり会 設立・平成20年3月23日
 発行・平成23年9月15日・第9号通信
 責任者・堀 達夫(井の口まちづくり会会長)
 〒500-8003 岐阜市大宮町1-17 ☎058-263-9540
 事務局長・河崎良史 E-mail・malo@he.mirai.ne.jp
 通信編集・作成 馬場わかよ(事務局)

自治会長の皆さんとの懇談会開催 より緊密な連携を築くことを確認!

井の口まちづくり会の活動に対して、自治会の皆さま方より一層のご理解、ご協力をお願いするた
 め、8月27日(土)午後7時より正法寺大仏殿において
 懇談会を開催いたしました。
 設立から4年目を迎え、会員数も当初予定の100人
 から185人と大きく伸びた現況の報告をはじめ、お月
 見アート、先進地視察研修等の各事業計画の解説、
 更には新たに予定をしているアンケート調査への協
 力をお願いしました。出席の皆さまからは「活動内
 容がよく分かった」「できるだけ協力していこう」
 など有難い言葉を頂戴しました。
 なお、次年度からは自治会長の皆さまとの懇談会
 をより早い時期に開催していく予定です。(堀)

井の口地区の自治会組織(19自治会)

- 2地区 大宮町1丁目 大宮町2丁目 木挽町
山口町 益屋町
- 3地区 上茶屋町 下茶屋町 今町1丁目
今町2丁目
- 4地区 松下町 松山町 夕陽ヶ丘 夕陽ヶ丘県
営住宅 松ヶ枝町北組 松ヶ枝町南組
- 5地区 今町3丁目 今町4丁目 大仏町 梶川町



大仏殿庫裏にお集りいただいた自治会長の皆さんと役員

ぎふ大仏フェスティバル

子どもたちが楽しくゲームに参加しました

ぎふ大仏フェスティバルが猛暑の7月18日・19日の両日開かれました。大仏殿前広場ではバザー、宝探し、あんどん祭りをはじめ、カラオケ、盆踊り大会が例年どおり行われました。
 私たちイベント部会は、まちづくり会発足の4年前から子どもたちを対象にしたゲームで協賛しています。
 初日のゲーム「インペットボール」は、ペットボトルをガムテープでとめたホールに、傘の持ち手をスティックにしてビニール製のボールをより多く入れたチームが勝ちというもの。器用に入れる子らが拍手が沸きました。
 2日目は「りんごの皮むき」ゲーム。画用紙で作ったりんご型の紙を手でちぎって細長く裂いてその長さを競う個人戦です。慣れない手付きで取り組んだものの思うように行かず、応援のみんなの笑いを誘う子もいました。
 勝ち負けに一喜一憂する子どもたちにはささやかな記念品を渡しました。来年は25回の節目。たくさんの皆さんの参加で盛り上げましょう。(神山明)



インペットボールゲームを頑張る子どもたち

7月3日(日)~9日(土) まちなか七夕アートを開催 七夕コンサート6日(水)

笹の七夕飾りとフルートコンサート

日本古来から伝わる七夕飾りを井の口地区内の民家の軒下に飾っていただく、まちなかアート部会の新企画「まちなか七夕アート」を7月3日から1週間開催しました。

3日は早朝から竹笹を切り出しに行き、午後から希望者に七夕飾りセットを付けて配付。約50軒のお宅がそれぞれ工夫を凝らした飾り付けで町並みを演出していただきました。
 河村邸の2本の笹には部会メンバーが飾り付けをし、その様子は5日朝の中日新聞に掲載されました。

その河村邸にて6日(水)午後6時30分から「まちなか七夕コンサート」を開催。来場の皆さんには開演前の時間に、短冊に願いごとを書いていただき笹に取り付けました。



フルート奏者・AKIさん

プロのフルート奏者AKI(遠山亜希)さんによるクラシックから日本の童謡、歌謡曲、アニメソングまでの1時間余りのコンサートは大盛況で、会員と地元住民の方々や新聞を見て来た方など約80人が楽しみました。
 今回はプロの演奏者をお願いしましたが、次回からは若手アーティストの発表の場になるような企画を考えていきたいと思っています。

また、コンサート会場として提供いただいた河村邸は、ご夫妻の手で清掃がされ、丹精込めて畑で育てられた花々で屋敷中が飾られていて、訪れた人たちの目も心も楽しませていただきました。お心づかいに厚くお礼申し上げます。(伊藤)



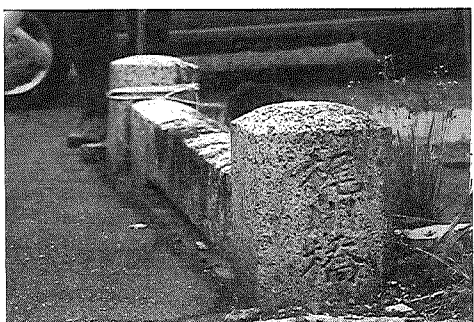
七夕飾りを施した河村邸の前でコンサートの受付

まちなかお宝アート 梶川堀の梶川橋跡

常在寺の西を縦に流れる梶川堀。その大手門通り沿いに小さな石製の橋跡がありました。

道三、信長が造った城下町では堀を挟んで東が武家屋敷、西は町家に分けられており、歴史的視点からも梶川堀は「井の口のまちの成り立ちを示す」まちのお宝です。そこに残る石製の欄干は一つの記念碑でありました。その橋跡が道路改修工事によって手違いから壊されました。

無くなって初めて、大切なものを粗末にしていたのではないかと気がつくことがあります。梶川橋跡に限らず、昨日までそこにあったものが消えないよう、まちのお宝を守るために皆が心に刻みましょう。(馬場)



常在寺より西へ数十歩の歩道の端に、ひっそりとあったかつての梶川橋の欄干。当たり前すぎて、いつしか気にとめなくなっていたのは私たちのほうかも知れません。

お知らせとご協力をお願い! 「井の口マップ」を今年度末に改訂します

井の口マップは、まちづくり会設立の平成20年度に「わがまちマップ作成部会」のメンバーが中心となって、役員の方々と事務局で作成しました。当時3万部を印刷しましたが残数がわずかになり、今年度中に改訂版を作成することが決まりました。
 皆さまに親しまれ、このまちを訪れる観光客にも活用していただきましたマップですが、3年も経ちますとまちの様子が変わってきています。新たなお店や施設の情報は更新しなければなりません。またまちづくり会の活動も活発になり、ご紹介したいイベントなども増えました。
 マップの作成はこれからです。マップに載せてほしい情報などがありましたら、堀、河崎、小林(正法寺)、馬場までお知らせください。

井の口マップを置いていただけるお店や施設を募集します。また、印刷費用にかかる協力金を同時にお願いたします。金額に応じてマップを増量してお渡しさせていただきます。

井の口まちづくり会・部会主催イベントのご案内

井の口まちづくり会 部会メンバーを募集

井の口まちづくり会では5つの部会が活動の中心となって、特色のあるいろいろな事業やイベントを行っています。

右紙面ではまちの風景検討部会、まちなかアート部会による活動をお知らせしていますが、そのほかイベント部会では、全国日本学生落語選手権「策伝大賞」に出演した学生たちによる落語会「井の口寄席」を開催。まちの歴史探索部会では、このまちの歴史勉強会や俳句会を開催しています。

私たちと一緒にまちづくり活動をしていただける会員の皆さんをいつでも募集しています。下記の申込書に記入して堀会長、河崎、部会リーダーまでお届けください。

●イベント部会

- 杉山 秀子 (◎) 河崎 良史 (○)
- ・ぎふ大仏フェスティバルへの協賛
- ・御鯰街道ウォークの支援
- ・井の口寄席の開催

●まちの歴史探索部会

- 中村 末雄 (◎) 森 勝彦 (○)
- ・岐阜公園の発掘と将来像の勉強会の実施
- ・御鯰街道ウォークの支援
- ・俳句こと始めの開催

●まちの風景検討部会

- 小林 孝夫 (◎) 堀 智仙 (○)
- ・先進地視察研修の実施
- ・地区住民の景観意識調査の実施
- ・地区内建物の調査分析の実施

●まちなかアート部会

- 伊藤 かつお (◎) 杉山 範彦 (○)
- ・まちなか七夕アートの開催
- ・まちなかお月見アートの開催
- ・大仏様への年賀状展の開催

●広報通信作成部会

- 事務局 (◎) 会長 副会長 部会長
- ・井の口まちづくり会通信の発行
- ・井の口マップ改訂版の作成
- ・各種イベントの広報・PR

(◎はリーダー ○は副リーダー)

まちなかアート部会 まちなかお月見アート

10月9日(日)・10日(祝)・11日(火)・12日(水)
スタンプラリーを開催(10日(祝)18時～20時)

今年は晩秋の名月、十三夜を愛でる「まちなかお月見アート」を開催します。井の口のまちにお月見の風情を演出しましょう。



ススキを配付します 昨年のススキ飾りの様子

ススキを配付します

10月9日午後1時30分より伊藤(ふくろう)宅、戦国の大道通り、光芳堂前にてススキの無料配付を行います(予約申し込み可)。玄関先に飾っていただける方は受け取りに来てください。

大仏殿にパワーアップしたアートが出現!

9日からの4日間、昨年と同じ造形作家・後藤 謙氏によるアート作品が大仏殿東側に展示されます。タイトルは「大月殿」。見慣れた大仏殿の風景が作品によって満月と出会い、人と繋がる体感をしましょう。

スタンプラリー参加者にぜんざいのふるまい

10日の夜は井の口のまちをお月見でめぐるスタンプラリーを行います。十三夜のこの時期、お月様と岐阜城が重なる姿は美しく、スタンプ用紙に3つのスタンプを集めて歩きます。ゴールは伊藤(ふくろう)家。今年は皆さまに手づくりぜんざいを味わっていただきます。

大仏様への年賀状を募集します

昨年からはじめた「大仏様への年賀状」は、皆さんの年賀状を慈悲溢れる大仏様にも差し上げて、新しい年の幸せをお願いしようという企画です。手づくり、手書き、あるいは印刷やパソコン使用であってもオリジナルであることが条件です。大仏様がいただいた年賀状は「年賀状展」を開いて皆さまに見ていただきます。

●〒500-8018 岐阜市大仏町 ぎふ大仏様 宛へ。
または大仏殿正面に設置した投函箱へ1月10日まで。

まちの風景検討部会

日帰バス 視察研修 五箇山・白川郷

11月6日(日) 参加費2,000円
井の口まちづくり会員限定企画・定員46名

3回目となります日帰り視察研修は、いにしへの風景と文化を継承している世界遺産「五箇山」と「白川郷」に決定しました。好評を得た昨年の「長浜まちづくり」の経過学習に引き続く企画であり、多くの皆さまのご参加を期待しております。

現地では、ボランティアスタッフの協力を得て、世界遺産登録までの経緯、並びに現在の活動状況を学習する機会にしたいと思います。時代に取り残されたエリアというより、先人が育んだ文化の継承への熱い想いに、私たちは感激と癒しを覚えるに違いありません。

井の口のまちづくりと形態は違いますが、住んでみる方々の「まち」への想い、そしてその活動内容には共通するものがあると思います。また、道中では紅葉も楽しめることでしょう。

参加を希望される方は左下の申込書を提出ください。

- 申し込み先 大宮町1丁目 堀達夫会長宅
- 参加費用 2,000円(集合場所受付にて納金)
- 集合日時 11月6日(日) 午前7時30分
- 集合場所 名和昆虫博物館東側
- 帰宅予定時間 午後5時30分頃

景観住民アンケートを実施します

自治会のご協力を得て「井の口エリア住民意識調査」を実施します。まちづくり会では魅力ある井の口の歴史や文化を学習し、次世代を担う子どもたちに継承するため様々な活動を行っています。また、今後とも楽しくここ豊かに住まい続けるための活動も継続しています。

今回のアンケートで、お住まいの皆さまのお考えをいただき、こうした本会の活動方針を確認する重要な資料にしてまいりたいと思います。趣旨をご理解いただき、住民皆さまのご協力をお願いいたします。

- アンケート実施期間 9月20日～10月15日
- 回収方法は、お配りした封筒に入れて各町内自治会長宅へ10月15日までに投函してください。

部会メンバー申込書

部会名	
氏名	
住所	〒 —
TEL	— —
Eメール*	

*あればメールアドレスかFAX番号をお書きください。

バス視察研修参加申込書

氏名	
住所	〒 —
TEL	— —
同行者名 家族のみ	
○で囲む	会員 新規会員*

*新規会員は参加費と会費1口500円をいただきます。

9月から発掘調査開始 (萬松館～歴史博物館西道路)

道路拡幅がすすめられている高富街道沿いでは、すでに岐阜城下町遺跡発掘調査が松ヶ枝町で終了しています。残る大宮町でも9月から順次遺跡調査を拡幅工事がされる前に、岐阜市社会教育課によって開始されます。

道三、信長が造った城下町の遺構や出土品を発掘調査することで、まちの歴史をより深く知ることができ、この地区の成り立ちが分かります。

「百曲り通り」の道路改修では、横断する梶川堀を石畳で表現した。それは市の職員の提案と聞いている。災い転じて何とかではないが、私たちがこのまちを知り、このまちを愛する心を共有できる機会に充分になり得るであろう。岐阜市からは景観形成市民団体として認定され、助成金もいただいている。それに恥じぬよう紳士的に対応すれば、岐阜市も私たちとの協議にきつと前向きに考えてもらえると思信じている。

第3回御鯰街道ウォーク 9月23日(祝)

参加費無料 途中参加・離脱自由 小雨決行

今年も岐阜公園総合案内所をスタート地点として、笠松までの全長9キロで開催されます。お子さんを含めた皆さんの参加をお待ちしています。

- 行程と時間(抜粋)
- 9:00 岐阜公園総合案内所(木挽太鼓の演奏、出発イベント)
- 9:45 出発
- 10:00 御鯰所跡(資料配付)
- 10:30 白木町公園(茶菓接待)
- 11:30 溝旗公園(宿次イベント、昼食)
- 15:30 笠松問屋場・高嶋家(宿次の解説)
- 16:00 笠松湊(終点、鮎雑炊のふるまい)

井の口まちづくり会では、御鯰所跡の資料をお渡ししています。

事務局だより

事務局長 河崎良史

現在進行中の岐阜市の道路改修工事によって、梶川橋の石の欄干が壊された。それを知らせてくれた方も岐阜市の職員であった。我々にも反省点はある。道路整備の担当課の方々と2回も協議する機会を設けていたにもかかわらず、「七曲り通り」、「梶川橋」などの歴史的位置付けの協議や提案を働きかけなかった。冷静に考えれば公共工事の際、障害物となる工作物を撤去するのは当然の行為とも言える。今となっては、壊れてしまったものを元に戻すなんて子供じみたことを言うよりも前向きに考えよう。

新たにどのような方法で「梶川堀」を表現するかを皆で智慧を出し協議することから始めてはどうだろうか。「百曲り通り」の道路改修では、横断する梶川堀を石畳で表現した。それは市の職員の提案と聞いている。災い転じて何とかではないが、私たちがこのまちを知り、このまちを愛する心を共有できる機会に充分になり得るであろう。